

報道関係各位

2020.09.29

ゆうふつげんや  
**勇払原野での風力発電計画  
タンチョウやチュウヒなど希少鳥類への影響を懸念**

日本野鳥の会、日本自然保護協会、世界自然保護基金ジャパンと連名で  
大阪ガス(株)に中止の要望書を提出

■勇払原野の風力発電計画 日本野鳥の会は反対

(公財)日本野鳥の会(事務局:東京。以下、当会)は、2020年7月以来、希少鳥類の重要な生息地である勇払原野の東部(苫小牧市字弁天～むかわ町字鹿沼)での、「Daigas ガスアンドパワーソリューション株式会社」(本社:大阪)が計画する「(仮称)苫東厚真風力発電事業」に対し、事業の中止を求めています。

この度、全国規模で活動する自然保護団体である、日本自然保護協会、世界自然保護基金ジャパンと3団体連名で、事業主体の親会社である大阪ガス株式会社に対し、事業の見直し(中止)を求める要望書を提出しました。

6月に縦覧された計画段階環境配慮書に示された事業実施想定区域(以下、計画地)周辺では、国内希少種や天然記念物に指定されているタンチョウやオジロワシ、チュウヒやマガンなどの生息が明らかになっており、当会は、これら希少鳥類の保護の観点から、計画に反対するものです。



勇払原野



赤で示したエリアが、事業実施想定区域

## ■計画地は希少鳥類の宝庫

4,000kw 級の風車を最大 10 基建設するこの事業は、1960 年代から進められた苫小牧東部開発地域内に計画地があり、面積は 564.7ha(うち風車設置対象面積は 332.1ha)と、他の一般的な風力発電計画と比べて特に規模が大きいという訳ではありません。しかし、開発地域指定後に放置されたことで生まれた湿地や草原に、今ではマガン、タンチョウ、オジロワシ、オオワシ、チュウヒ、ハヤブサ、オオジシギ、アカモズなど絶滅危惧種等に指定される鳥類が多く生息し、計画地にある湿地や草原は、さながら希少種の「ゆりかご」のようになっています。

計画地に生息する希少鳥類には、風車建設によるバードストライクや生息地放棄などの影響を受けやすい種が多く、この計画が希少鳥類に大きな影響を及ぼすことは確実です。特に国内希少種に指定されるチュウヒは、国内推定数 90 つがいのうち 7 つがいが計画地内で繁殖しており、風車建設で全つがいが生息地放棄等を起こした場合、国内繁殖数の約 8%が消失することになります。



オジロワシ



タンチョウ



チュウヒ

写真:(公財)日本野鳥の会

## ■事業者には計画中止を要請、道や環境省へは事業者が計画を見直すよう指導することを要望

当会は、風車建設が上記の希少鳥類の生息に影響を及ぼすことは回避不可能と判断し、希少鳥類保護の観点から、令和 2 年 6 月 30 日付で事業者に対し「(仮称)苫東厚真風力発電事業に対する要請書」を提出し、事業計画の中止を要請しました。

また、令和 2 年 7 月 9 日付で北海道知事宛および環境大臣宛に「(仮称)苫東厚真風力発電事業に係る計画段階環境配慮書に対する北海道知事(環境大臣)意見に関する要望書」を提出し、計画段階環境配慮書に対して事業の見直しを含む厳しい意見を事業者へ提出、行政指導をするよう要望しました。

## ■添付資料

(仮称)苫東厚真風力発電事業に対する要望書

報道関係者様 問い合わせ先:

■公益財団法人 日本野鳥の会 自然保護室／大畑・浦(うら)、  
保全プロジェクト推進室／田尻(たじり)

●TEL:03-5436-2633(大畑・浦) / 03-5436-2634(田尻)

●E-mail: oohata@wbsj.org(大畑) / ura@wbsj.org(浦) / oojishigi-pj@wbsj.org(田尻)

■公益財団法人 日本自然保護協会(NACSJ) 保護部 大野(おおの)

●TEL:03-3553-4103 ●E-mail:ohno@nacsj.or.jp

■公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン 自然保護室 市川(いちかわ)

●携帯:090-6724-2032 ●E-mail:ichikawa@wwf.or.jp

※希望者には、事業者に令和2年6月25日付で提出した、各鳥類への影響等を記した「計画段階環境配慮書に対する意見書」を提供いたします。上記担当にお問合せください。

※掲載いただけます場合には、お手数ですが上記担当までご連絡くださいますようお願いいたします。

※写真はデジタルデータの提供が可能です。使用については必ずご相談ください。禁：無断転載。

## ■日本野鳥の会 組織概要

組織名 : 公益財団法人 日本野鳥の会(会員・サポーター 約5万人)

代表者 : 理事長 遠藤孝一

所在地 : 〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

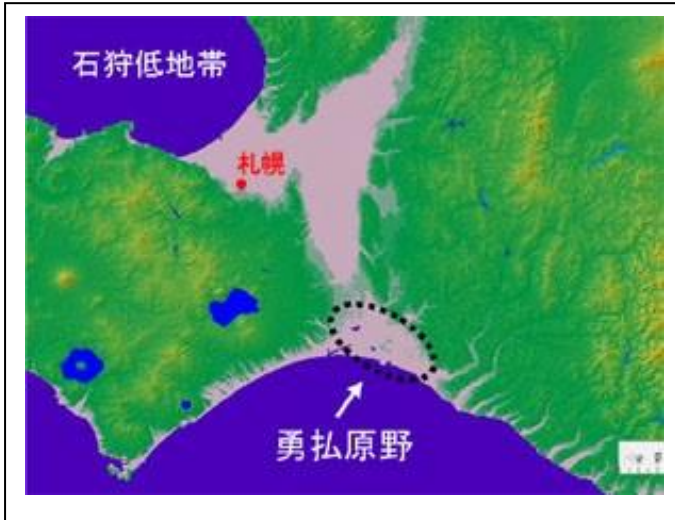
URL : <https://www.wbsj.org/>

## ■これまでに勇払原野の計画地周辺で確認されている希少鳥類

No	種名(注1)	学名	調査期間中の 記録種	環境省 RDB	北海道 RDB	IUCN RDB
1	カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>			VU	
2	サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>	○	EN	EN	
3	オオヨシゴイ	<i>Ixobrychus eurhythmus</i>	○	EN	R	
4	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	○	CR	EN	EN
5	マガン	<i>Anser albifrons</i>	○	NT	R	
6	ヒシクイ	<i>Anser fabalis (serrirostris)</i>	○	VU	R	
7	(オオヒシクイ)	<i>Anser fabalis middendorffi</i>	○	NT		
8	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>			R	
9	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>			R	
10	シノリガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>			R	
11	ミコアイサ	<i>Mergus albellus</i>			VU	
12	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	NT	VU	
13	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	○	NT	R	
14	オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	○	EN	EN	NT
15	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	○	VU	EN	VU
16	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	○	NT	VU	
17	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		NT	VU	
18	ケアシノスリ	<i>Buteo lagopus</i>			R	
19	ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>			R	
20	チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	○	EN	VU	
21	シロハヤブサ	<i>Falco rusticolus</i>			R	
22	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○	VU	VU	
23	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>		DD	R	
24	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>		NT	R	
25	ナベヅル	<i>Grus monacha</i>		VU		VU
26	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>	○	VU	EN	EN
27	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>			R	
28	ヒメクイナ	<i>Porzana pusilla</i>			R	
29	オオシシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	○	NT	R	
30	ケイマフリ	<i>Cephus carbo</i>		VU	VU	
31	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>			R	
32	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>			R	
33	クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>	○	VU	VU	
34	オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>			N	
35	アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	○	EN	R	
36	シマアオジ	<i>Emberiza aureola</i>	○	CR	R	

## ■勇払（ゆうふつ）原野について

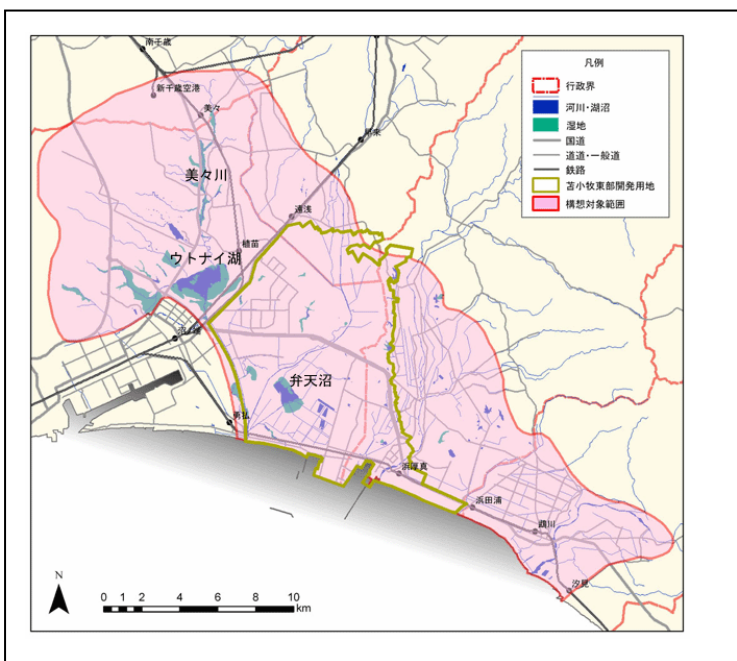
### 勇払原野とは？



道央圏にある石狩低地帯の一角で、苫小牧から太平洋に至る一帯を「勇払原野」と呼んでいます。勇払原野はかつて釧路湿原、サロベツ原野とともに北海道の三大原野と言われていました。約3万6千haの原野を構成する湿原の面積は、過去50年間で著しく減少しているものの、残された自然環境は、ラムサール条約湿地であるウトナイ湖を含み、水鳥や草原性鳥類、絶滅のおそれのある鳥類の生息地として重要な役割を果たしています。

### 勇払原野の歴史と現状

勇払原野は台地、砂丘、湿原、湖沼と複雑な環境を持ち、先住のアイヌ民族が暮らしていた時代から、川を利用した太平洋側と日本海側を結ぶ交通の要衝として、またサケやシカ等の資源に恵まれた土地として、自然と共存した文化がありました。勇払原野の開拓は江戸時代後期からで、農業開拓は湿地と霧、火山灰土に阻まれ、あまり進展しませんでした。



その後1960年代からの高度成長期に、空港に近く、海にも面した広大な平地として目をつけられ、第三次全国総合開発計画の一環として、国内有数規模の重化学工業地帯をめざした「苫小牧東部開発計画」がスタートしました。しかしその後オイルショック等の社会情勢の変化により、当初計画の1万700haの土地の多くが未利用地域として残され、また農地として開拓された場所が放置されて原野化し、結果として鳥類の良好な生息地となっています。



令和2年9月28日

大阪ガス株式会社  
代表取締役社長 本荘 武宏 様

公益財団法人 日本野鳥の会  
理事長 遠藤 孝一

公益財団法人 日本自然保護協会  
理事長 亀山 章

公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン  
会長 末吉 竹二郎  
<公印省略>

### (仮称) 苫東厚真風力発電事業に対する要望書

貴社におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、貴社のグループ会社である Daigas ガスアンドパワーソリューション株式会社が本年 6 月に環境影響評価の計画段階環境配慮書を公告・縦覧した(仮称)苫東厚真風力発電事業に係る事業実施想定区域とその周辺の地域は、日本野鳥の会が 1981 年に設置した日本で最初のサンクチュアリであるウトナイ湖に近く、様々な希少鳥類の重要な生息域となっています。さらに、日本野鳥の会が重点を置いて取り組むウトナイ湖・勇払原野プロジェクトの対象であり、風力発電施設の建設がこの地域に生息する鳥類と自然環境に大きな影響を与えることを大変心配している次第です。現在、全国で多数の風力発電計画がありますが、当地はその中でも国際的な基準で指定されたラムサール条約登録湿地等の保護区に隣接し、希少鳥類の種数が最も多く確認されていることから、このまま計画が進められた場合、日本はもとより国際的にも非難の声が上がりかねません。

そのため、将来に向け、貴社の環境保全への取り組みを日本のみならず世界に向けてアピールすることのできるよう、また、生物多様性保全の観点からも下記の通りに当該地域での事業の見直しを切に要望致します。

### 記

日本野鳥の会らが令和 2 年 6 月 25 日付で提出した「(仮称)苫東厚真風力発電事業に係る計画段階環境配慮書に対する意見書」にもあるように、貴社の 100%出資子会社である Daigas ガスアンドパワーソリューション株式会社が北海道・苫小牧市から厚真町にかけて計画している(仮称)苫東厚真風力発電事業に係る事業実施想定区域(以下、計画地という)とその周辺は、ラムサール条約登録湿地や二つの IBA(重要野鳥生息地) および KBA(生物多様性の保全の鍵になる重要な地域)に囲まれ、これまで

に 277 種の鳥類が確認されるなど国内でも有数の鳥類相の豊かさを有しており、マガン、タンチョウ、シマクイナ、ヘラシギ、オジロワシ、オオワシ、チュウヒ、ハヤブサといった国内希少野生動植物種および天然記念物に指定される希少鳥類が近年においても多数生息していることが確認されています。

上記の希少鳥類には、風力発電施設の建設による影響を受けやすい種が多く含まれることから、当該事業の実施が計画地およびその周辺に生息するこれらの希少鳥類に及ぼす影響は大きく、事業を実施した場合は、影響を回避できないと考えます。また、種の保存法では国内希少野生動植物種の保存に留意しなければならないことが土地所有者の義務とされ、文化財保護法では天然記念物への配慮義務が求められていることから、計画地での風力発電施設の建設が上記の希少鳥類の生息に影響を与えるべきではないと考えます。

そのため、我々は希少鳥類の保全の見地から、事業者である Daigas ガスアンドパワーソリューション株式会社が、環境影響評価方法書の作成に進まず、現段階で事業の見直しを行い、環境影響が少ない当該地以外において再生可能エネルギー事業をすすめていただけるよう、貴社に要望いたします。

以上

添付資料：「(仮称)苫東厚真風力発電事業に係る計画段階環境配慮書に対する意見書」(公益財団法人 日本野鳥の会ほか)